

令和4年度 2月号

令和5年1月30日発行  
横浜市立東汲沢小学校

# “輝け！ひぐみっ子” だより

～東汲沢小学校教育目標「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」～

☎861-5531 <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/>

## 「一コマの授業」

副校長 田邊訓志

子どもが学校で過ごす時間のほとんどは授業時間です。一人ひとりの教師は、その「一コマ、一コマの授業」が子どもたちにとってまずは安全・安心で、そしてよい時間になるように、いわゆる「授業力」の向上を目指して、努力と工夫を重ねています。

「子どもたちにとってよい時間」とは、東汲沢小学校教育目標の目指す姿「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」に向かう時間そのものであり、その中ではぐくまれる力を、「生きて働く知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で整理しています。

行事予定の中に、「授業研究会」が設定されています。「校内授業研究会」と「校外授業研究会」がありますが、この「授業研究会」では、教師が「学習指導案」というものを作成し、ほかの教師に授業を公開し、それを参観した教師と意見交換がなされます。このことを通して、教師一人ひとりが自己の授業を振り返り、翌日からの子どもたちの授業に生かしていきます。この「授業研究会」は、日本型教育の特徴の一つですが、「レッスンスターディ」という名称で、世界各国で取り入れられるようになってきているそうです。

先日は、本校の7回目の授業研究会が行われました。教科は「道徳」でした。

子どもたちの実態として、身近な人や目の前で何かをしてくれた人に対しては、おおむね「ありがとうございます」と感謝の気持ちを伝えることができるが、見守りや交通整理をしてくださっている学援隊の方や、学習のお手伝いをしてくださる地域の方には、挨拶ができる子どもと、あまりできていない子どもがいることが分かりました。

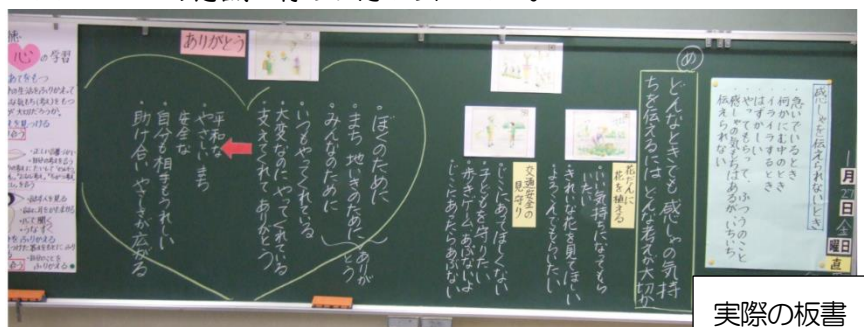
理由を聞くと、「急いでいた」「友達との話などに夢中だった」「はずかしい」「していただいていることが当たり前」に思っていた、「伝えたほうがいいと思うが、毎日伝えている」などでした。

この学習のねらいは、「子どもが、地域の人々などの他者が、自分の成長や自分の生活を支えてくれていることが分かり、尊敬と感謝の気持ちをもって接しようとする態度を育てる」ことです。そのために、対話をもとに、子どものいまの意識(実態)をすいあげ、子どもたちと一緒に学習の計画を立てます。

事前に、自分たちが「家庭」「地域」「学校」でどんな方々に支えられているかを考えたり、学校司書による「友達」「母親」「高齢者」を取り上げた3回の読み聞かせを聞いたり、カードを使って自分をふり返ったりする取り組みを行いました。また、教師が実際に登校時の交通安全指導が行われている場所に行き、その様子を撮影するとともに、学援隊長さんに思いや願いをインタビューした映像を作成し、授業で子どもが視聴したりもしました。

こういった活動とおして、子どもたちから、「地域の人々が自分の成長や生活を支えてくれていること」の実感が伺えるような、たくさんの意見や感想が出されるようになりました。日頃からお世話になっていることへの感謝の気持ちを伝えることや、自分もできることをしたいという意識の育ちが感じられました。

この授業を見ている教師は、みな、にこにこしていました。教師たちは、この授業をそれぞれの学級に持ち帰って、子どもたちのために生かすことでしょ。これからも、ひぐみは、「一コマの授業」づくりをとおして、子どもにしっかり向き合う教師集団であり続けたいと思います。



実際の板書